

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 244

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

人は幸せになるために生まれてくるのです

『人権』は、人類が地球に誕生した時から与えられていたわけではありませんが、自由と尊厳を奪われて苦しんできた多くの人たちが、命を懸けて勝ち取ってきた、かけがえのない宝ものなのです。日本国憲法でも、自由権、参政権、社会権などのさまざまな権利が保障されていますが、これらも先人たちの努力の結晶であることを忘れてはいけません。

『権利』と『義務』の関係を通して『人権』を考えると大切なことが見えてきます。人権が『すべての人が幸せに生きる権利』であるのなら、同時に、すべての人は『他人が幸せに生きる権利を奪ってはならない義務』を負っているのです。

しかし、人生の節目で幸せを奪われる人たちがいます。例えば、優れた能力がありな

がら希望する職業に就くことができなかったり、世間体を気にする周囲によって愛を引き裂かれたり。このように、人を幸せにさせない最も深刻にして重大な社会問題が『部落差別』なのです。部落差別は、すべての幸せと未来を奪います。時として命をも奪います。「自分は差別なんてしないから関係ない」と言う人もいますが、本当にそうなのでしょか。「愛の反対は憎しみではなく無関心」とマザー・テレサは言いました。無関心から悪意や自覚なく差別が生まれているのであれば、差別は加害者をも不幸にします。知らないうちに差別の加害者になることがないように、正しい認識を身に付けることが求められているのです。

なぜなら、私たちは幸せになるために生まれてきたのですから。

郷土の文化財

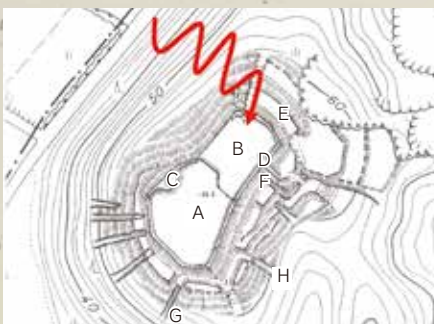
伊万里の城館跡シリーズ⑰

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 233186

道祖瀨城跡

道祖瀨城跡は大川内町字五本谷に所在する山城跡で、青螺山から北に延びる丘陵の北端上に位置し北に伊万里川と杏子川の合流点を望んでいます。市内の山城の中でも特に充実した防御施設を残す城跡で、そのつくりから十六世紀中葉から後葉に最終整備がされたと考えられます。

主だった特徴としては、中心的な曲輪(A・B)の全周を囲んでいる土塁、北方への警戒のためと思われる櫓(C)、接敵対策としての周到な平面構造をもつ虎口(D)、西斜面から南斜面にかけていくつも掘られた堅堀(G・Hほか)など、多くの防御施設が効率よく配置されており、特に虎口周辺の構造は学術的にも重要な遺構として評価されています。



↑ 道祖瀨城の登り口と縄張り

文献上には、この城について記述されたものは確認されていません。一三八四(永徳四)年の下松浦一揆契諾状に記載された『ふくの因幡守』との関連が推測されていますが、詳細は不明です。道祖瀨交差点から南西へ約300mの市道脇に丘陵上へ続く道があり、これに登ると道祖瀨城へ行くことができます。